

# 「保育の専門性」を生かした保護者支援

社会の変化とともに地域社会や近隣から支援を受けながらの子育てが難しくなる中、  
保育者による保護者への支援がますます重要になっています。  
教育や福祉、医療など、保護者と子どもに関わることの多い専門家の中で、  
「保育者」に期待される支援とは何かを考えます。

## インタビュー

### 保護者を受容し、子どもとの関係づくりを支援する

近年、注目を集めている「保育相談支援」。  
この考え方について、保育者としての経験もある  
橋本真紀先生にうかがいました。

関西学院大学教育学部教授 **橋本真紀**

#### 社会の変化によって 保護者との関係構築が困難に

「最近では保護者との関係構築が難しくなった」と話す現場の先生がとて増えていると感じます。先生がたが感じているその難しさの中身をうかがうと、それは個別な対応を必要とする家庭や、特別な配慮を必要とする家庭が増えてきたということです。

個別な対応を必要とする家庭とは、例えば保護者が病気や仕事といった事情のために、通常よりも子どもを長く預かってほしいなど、園へのニーズを強く出さざるを得ない状況になった家庭です。また、特

別な配慮を必要とする家庭とは、例えば子どもへの虐待の疑いがある家庭、子どもや保護者に発達障害があると考えられる家庭、そして保護者がうつ病や統合失調症などの精神疾患のある家庭などです。こうした要因は、複合的に絡み合い、状況をさらに困難にしているケースも少なくありません。

このような家庭の存在が近年注目されるようになった背景には、私は社会の変化と、地域の対応力の低下があると考えています。例えば、昔はお迎えに来られなくなった家庭があっても近隣の保護者が「それじゃあ、私が代わりに〇〇ちゃんを連れて帰りましょう」などと、地域



はしもと・まき◎専門は地域子育て支援、家庭支援。共著に『保育相談支援』（ミネルヴァ書房）、『保育者の保護者支援-保育相談支援の原理と技術-』（フレール館）など。

の人間関係の中で助け合うことができましたが、今はそのようなことは難しくなっています。地域で課題を吸収する力が弱くなり、その分、園がいろいろな課題に対応しなければいけなくなっているわけです。特に社会的に人との関係調整を図りにくい、特別な配慮を必要とする家庭にとっては、より顕著な問題になって表面化します。



#### 保護者を協働する仲間ととらえ直す

よく「最近では、幼児教育や保育をサービスとしてとらえている保護者が少なくない」「園に対して一方的に要望だけを主張する保護者が増えた」といった声を耳にしますが、それは保護者の価値観が変わってきたからというよりも、家族や地域のあり方が変わったため、これまでにも存在した個別な対応を必要とする家庭、特別な配慮を必要とする家庭の存在が注目されやすくなったからだと考えた方がいいのではないのでしょうか。

また、幼児教育や保育をめぐる社会制度自体も大きく変わりつつあります。「子ども・子育て支援法」も見方を変えれば、保護者に対して自分の望む保育や幼児教育のあり方を踏まえて、自分に合ったものを選んでもらおうという社会の意思だとも言えるかもしれません。

そうした状況だからこそ、個々の保護者を「一方的な自己主張をしないでほしい」と否定的な面だけでとらえるのではなく、「それぞれに困難を抱えながら子育てに取り組んでいる」と肯定し、協力・協働して一緒に子どもを育てていく仲間であるという意識に立つことが、今改めて

必要なのだと思います。

つまり、保護者との協力・協働的な関係を構築していくためには、それぞれの家庭の状況、課題をくみ取り、自園としてはどこまで応えることができるのかを考えることがますます重要になっていると言えるでしょう。

#### 保育相談支援の援助スキルの基盤は「保育の専門性」

個別な対応を必要とする家庭、特別な配慮を必要とする家庭の保護者を支援しながら、親子関係や養育力の向上を目指すのが、「保育相談支援」という援助スキル（技術）です。保護者支援の中では、カウンセ

リングやソーシャルワークなどの専門技術が用いられる場面もあります。しかし、ベテランの保育者はきっとそうした専門技術を特別に意識することなく、これまでも保護者支援を行っていたはずで、その意味では、保育相談支援は新しいものではなく、保育者がもつ

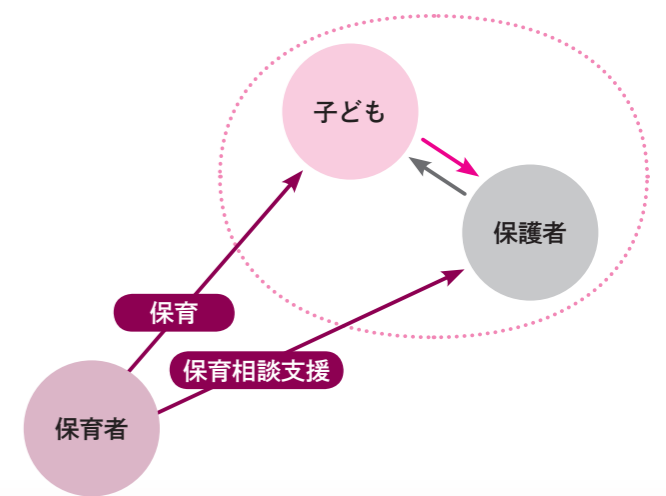
「保育の専門性」を基盤に、以前から園で行っていたものであるとも言えます。

虐待が疑われるケースがあったとき、臨床心理士やソーシャルワーカーは各々の専門技術を生かしたアプローチを行います。では、保育者はどうでしょうか。ほかの専門職以上にその親子に日常的に接してきた保育者として、問題の解決に主体的に関われる部分があるでしょう。臨床心理士やソーシャルワーカーと対等な立場で連携できるよう、保育の専門性を体系化し、保護者と子どもへの関わりに生かしていくのが保育相談支援だと思います。

#### 親でありたいという気持ちを認めていく

「全ての保護者はその子の親でありたいと願っている」「全ての保護者は、親としての力をもっている」ということを保育者が信じるのが、保育相談支援の基本です。たとえ毎日きちんとできていなくても、

図1 保護者に対して行う「保育相談支援」



保護者への保育相談支援は、親子関係により影響を与えることを目的に行われる

表1 保育相談支援の技術例と具体例

著作権の関係で表示できません。

保護者が園に子どもを送り出しているというだけで、その保護者には「親でありたい」という思いがあるはず。園の約束事を守れないことがあるなど、保育者から見れば改めてほしいところがある保護者であっても、親でありたいという気持ちを認

め、その気持ちを支え続けることが保育者の役割だと思います。保育者のそうした態度は、保護者を通して、きっと子どもの最大の利益につながります。

もちろん、園の約束事を無視してもよいというわけではありません。

ですから、足りない部分は補い、改めるようお願いはするけれども、保護者の、親であろうとする気持ちを認める態度を貫きたいと思うのです。

例えば、お弁当を持たせないで登園させることがある保護者が、遠足

にコンビニの弁当を持たせたとき、それもその保護者なりのささやかな努力だと認めて「今日、〇〇ちゃんはみんなとおいしそうにごはんを食べていましたよ」と話しかけるのか、「コンビニ弁当を持って来させるなんて…」という目で見るとかでは、その後の保護者との関係性は大きく違って来るでしょう。もしも保育の専門知識をもった保育者から「お母さん、がんばっていますね」と声をかけてもらえれば、親であろうと懸命になっている保護者にとって何よりの励ましになるはず。

### 体系的な援助の技術と知識で保護者に共感する

保育相談支援において保育者は、自分がどう関わりをすれば子どもと保護者の関係がよくなるか、子どもと保護者がふたりで葛藤を乗り越えていける関係になるかを意識しながら関わることが大切です。

保育相談支援の具体的な技術にはさまざまなものがあります(16ページ表1参照)。例えば、「気持ちの代弁」という技術は、子どもの思いを保護者に伝えるものです。子どもの気持ちを保育者が客観的にとらえ、保護者に伝えることで両者の関係を修正することになります。言葉がうまく使えない0～2歳児でも、子どもと時間をかけて関わっている保育者であれば、その気持ちを適切に代弁することができます。保育者の代弁を通して、保護者は子どもの気持ちのとらえ方、子どもを理解する視点のもち方がわかるようになります。

「共感・同様の体感(同感)」(16



ページ表1参照)は、対人援助職が活用する「共感」とは異なる保育者の特性と言えます。保育者は子どもの成長に直接的に関わり、支えています。子どもの成長は保護者の喜びであると同時に、共に支えてきた保育者の喜びでもあります。子どもの成長に対する保護者と保育者の喜びの共有は、カウンセラーがクライアントの心情を理解しようとする「共感」とは異なります。同じ体験を有する者同士の「共感」を超えた「同感」です。ただし、その後の対応は、保護者の親としての立場を尊重し、子どもの育ちを支えた力を認め、保護者の自信を支える方向に転換していくことが大切です。

私は学生に「自分にとっては非常識だとしか思えない保護者の言動は、保護者の側から解釈しないと共感もできない。そのためには自分の感覚だけで保護者をとらえるのではなく、発達障害や精神疾患に関する知識が必要」と説明しています。そうしないと、彼らが保育者となった

ときに、理解が難しい保護者を前に疲弊してしまうからです。

### 援助技術を整理することでさらに保育に自信がもてる

表1で整理した保育相談支援の技術は、ベテランの先生がたにとってはふだんから取り組んでいる、当たり前のものばかりかもしれません。

ただ、こうして技術を整理したのを見ながら現場の先生がたと話すと、「私たちが特に意識せずに保護者に対して行ってきた働きかけの中には、これだけ多様な技術が盛り込まれていたのですね」と驚き、「保育の専門性の豊かさに自信を深められた」ということがよくあります。また、「これまで保護者に対しての助言だと思っていた自分の働きかけは、むしろ『解説』と呼べるものでした」と気づきを得る先生もいます。

実践を通して培った多彩な技術を整理すれば、若手保育者とともに日々の保育を振り返るときにきっと役に立つはず。

#### 現場のみなさんへ

◎高齢者福祉の領域では、問題を家族と施設だけで抱えるのではなく、地域の中で対応していこうという動きが始まっています。私は、保育の領域でもそうした動きが始まると思いますし、もはや園だけで個別のニーズに対応するのは困難だと考えています。園が外に開き、地域のさまざまな人たちと連携していくためにも、保育を言語化する力はますます重要になると思います。

## 橋本先生監修 ● ケーススタディ

## 事例1 ● 子どもの様子に不安を感じている保護者

## 園での友だち関係や園生活に不安を募らせ、アンケートを通じて要望を伝えてきた保護者Aさん



1 Aさんは子どもを愛情いっぱいに一生涯育てていますが、小さなことも気になる様子うかがえる30代の保護者です。ある日、Aさんが参加した保育参観後のアンケートに「遊びの中での友だち関係をもっと注意深く見て保育をしていただけませんか」という要望が書かれていました。確かに娘のTちゃん（4歳女児）は、最近、一緒に遊んでいる友だち関係が少し流動的になっていると感じていたため、担任も様子を見ている段階でした。しかし、ふだんのAさんの様子から園やTちゃんに対してこのような思いをもっているとはとらえていなかったため、担任は少しショックを受けました。



2 数日後、お迎えのときに担任がAさんに声をかけてアンケートに書かれていた内容について聞いてみました。すると、園では見られないTちゃんの様子がAさんから語られたのです。「園は楽しくなかった」「○○ちゃんから遊ばないって言われた」などとTちゃんから聞いているとAさん。さらに保育参観で、Tちゃんがひとりで遊んでいる様子を見て、「友だちに仲間はずれにされているのではないか」「担任は子ども一人ひとりを見ていないのでは」と不信感を抱いたと話しました。

## 橋本先生の解説

## ともに育てる仲間であることを言葉で伝える

素早く対応するために、お迎えのときに声をかけるのはよいですね。加えて、保護者の気持ちを受け止めるために、別の機会にゆっくりお話しする時間をとってよいでしょう。改まって場を設けることで「向き合ってくれている」と安心感をもってもらえます。サインを出している保護者には、「受け止めていますよ」ということを伝える環境を設定することが大切だと思います。

そのうえで、気持ちに共感するだけで終わらずに、保護者と一緒にTちゃんをどう支えるか、「今の状況はTちゃんの成長のプロセスだから、Tちゃんのために最大限に生かしたいですね」と保護者とTちゃんを見守る仲間であることを言葉にして伝えるとよいでしょう。

気になったのはTちゃんが園ではそうした気持ちを一切言わずに、家庭で吐露した点です。もしかするとクラスの雰囲気 genuinely Tちゃんにとって居心地の悪いものになっているかもしれませんし、母親に何かをアピールしたかったのかもしれません。家族の関係性を含めてTちゃんの状態を理解し、必要な支援を考えることが大切だと思います。

## 事例2 ● 祖母にお任せで園や担任と関係性が築けていない保護者

## 園や育児に無関心だったが、子ども同士のトラブルを契機に園への不信感を募らせていった保護者Bさん



1 Mちゃん（4歳女児）はふだんのお迎えは祖母が来ているため、保護者のBさんが園に来ることはなく、行事などで会ったときも、園の取り組みに関心をもっているようには思えませんでした。ある日、連絡帳を通じて、前日のプールの着替えのときにMちゃんがある女の子から体に関することでのいやなことを言われたと書かれていました。その日の夕方、担任はお迎えに来た祖母に事情を聞いたうえで謝罪しました。



2 祖母が「大丈夫ですよ」と答えたこともあり、担任は特に園長に報告はしませんでした。ところが2日後、保護者のBさんから強い怒りの電話がありました。「Mは大変傷ついている。園長は知っているのか？ 相手の親とも話をしたい」と感情的です。園長は知らなかった情報だったので、まずそのことを謝罪しました。

## 橋本先生の解説

## 気になる家庭には園全体で対応する

このケースも園が一生懸命に対応されたことは十分によくわかります。ただ、ふだんから保育者として何か気になる家庭や特別な配慮を必要とする家庭については、担任だけで抱え込まずに、園長先生などにできるだけ早めに報告し、組織で対応するということを保育者の共通理解として確認しておきたいものです。

また、園に関わっているのは祖母ですが、子育ての主導権はどちらにあるのかということに注意深く見る必要があります。それが母親なのであれば、ご本人に直接電話して説明することが必要だったかもしれません。また、祖母と母親との間にコミュニケーションが円滑に行われていない可能性があり、この他にも気になることが生じるようであれば、園だけでなく、子育て支援センターや家庭児童相談室、保健師さん、また進学先の小学校の先生にも引き継ぎながら複数の目で見守ることが大切だと思います。